

授業概要

造形指導者として子どもの柔軟な感性に対応していくためには、様々な素材に親しみ、豊かな造形体験が必要である。本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いについて理解するとともに、造形の基礎技能の習得を図る。また、造形活動で用いられる基本的用具（クレヨン・ポスターカラー・油粘土等）の扱い方と、製作の材料を活かした多様な表現、安全指導などについて学ぶ。幼・保・小学校の連続性を視野に入れた絵画・造形の発達段階について理解を深め、子どもに造形の指導と支援ができる力を身につける。

授業計画

| | |
|------|---|
| 第1回 | 造形活動のねらいと内容（材料・用具についての正しい知識と安全指導） |
| 第2回 | 平面表現の基本と展開Ⅰ 合わせ絵（デカルコマニー：色と形の変化に気づく） |
| 第3回 | 平面表現の基本と展開Ⅱ 糸引き（ストリングデザイン：素材に親しみ、工夫して遊ぶ） |
| 第4回 | 平面表現の基本と展開Ⅲ 型押し絵（スタンピング①野菜の活用） |
| 第5回 | 平面表現の基本と展開Ⅲ 型押し絵（スタンピング②廃材と人工物の活用） |
| 第6回 | 平面表現の基本と展開Ⅳ 引っかき絵（スクラッチ①クレヨンと棒状絵の具について） |
| 第7回 | 平面表現の基本と展開Ⅳ 引っかき絵（スクラッチ②世界の児童画に見られる様々な線描） |
| 第8回 | 平面表現の基本と展開Ⅴ 切り絵（ハサミを用いた多様な表現：壁面装飾） |
| 第9回 | 平面表現の基本と展開Ⅵ 墨流し（マーブルリングの不思議な世界：感動したことを伝え合う） |
| 第10回 | 平面表現の基本と展開Ⅶ 色染め（板締め絞り：生活の中でイメージを豊かにする） |
| 第11回 | 立体表現の基本と展開Ⅰ 粘土の特徴と種類（油粘土・紙粘土・小麦粉粘土など） |
| 第12回 | 立体表現の基本と展開Ⅱ 油粘土と感触遊び（動物づくり） |
| 第13回 | 立体表現の基本と展開Ⅲ 型を使った和紙の彫刻（張り子・お面づくり） |
| 第14回 | 立体表現の基本と展開Ⅳ 和紙の立体彩色（色と形：遊びに使い、飾ったりする） |
| 第15回 | 立体表現の基本と展開Ⅴ 紙の特性と接着（のり、ボンドなど接着の活動と種類） |
| 第16回 | 鑑賞教育 まとめ 作品提出 |

※学外授業及び学外講師を招聘することもあり得る。

到達目標

- ・子どもの自分なりに表現する姿を理解すると同時に援助することを具体的場面から学ぶことができる。
- ・子どもの造形表現に関する知識や基礎技能の習得を図るとともに、表現の楽しさを実践的に学ぶ。
- ・造形活動を通して、様々な材料用具の正しい扱い方と安全指導を身につけることができる。

履修上の注意

造形活動で用いられる様々な材料用具（ケント紙・クレヨン・絵の具・油粘土等）は、各自が準備することになる。詳細は授業内で随時説明する。

予習復習

学生自身が造形活動を楽しみ、豊かな感性を育てることが求められる。そのための準備・努力を惜しまないこと。主体的かつ授業外においても、造形活動に取り組むことを期待する。

評価方法

個人・共同製作における持ち物の準備（20%）。作品の期限内における提出の有無と内容（40%）。学習態度、協調性（40%）

テキスト

教科書『保育をひらく造形表現』 榎 英子/著 萌文書林/出版 ISBN：978-4893472953

参考書・参考資料等『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社、2017年